

2026年3月期 第2四半期



アリアケジャパン株式会社

決算説明会資料

2025年11月7日

アリアケジャパン株式会社（証券コード2815）

目 次

- 02 [連結 単体] 第2四半期 決算のポイント
- 03 第2四半期（4月－9月）連結・単体業績一覧（対前年）
- 04 第2四半期（4月－9月）連結・単体業績一覧（対計画）
- 05 第2四半期（4月－9月）子会社業績一覧
(対前年・対計画)
- 06-07 [グループ別] 第2四半期 売上高（対前年比較）
- 08-09 [グループ別] 第2四半期 営業利益（対前年比較）
- 10 [単体] 第2四半期 決算のポイント
- 11 [単体] 第2四半期 売上・利益の状況
- 12 [単体] 第2四半期 カテゴリー別売上高比率及び増減
- 13 [単体] 第2四半期 利益変動要因（対前年比較）
- 14 [単体] 2026年3月期通期の見通し
- 15 [子会社] 第2四半期 決算のポイント
- 16 [子会社] 2026年3月期通期の見通し
- 17 [アジア] 海外グループ会社の状況
- 18 [欧州] 海外グループ会社の状況
- 19 [その他] 海外グループ会社の状況
- 20 2026年3月期計画
- 21-26 過去5年 推移データ
- 27 アリアケグループ「世界7極体制」

〔補足資料〕 決算のポイント

第2四半期 決算のポイント

□ 連結

減収、増益（為替中立では増収、増益） 子会社の減収と国内微増が影響。

営業利益は対前年 + 8.1% 純利益は対計画 + 3.1%。

単体

増収、増益 売上高対前年 + 0.3% 純利益は対計画 + 5.3%

CVS向け製品の販売不調により売上高は対前年微増も営業利益は対前年 + 7.0%。

□ 子会社

減収、増益（為替中立では増収、増益） 売上高対前年 - 3.0% 営業利益同 + 1.5%

景気低迷のアジア（中国、台湾）を欧州の増収、増益でカバー。欧州の利益改善進む。

□ 2026年3月期計画（変更なし）

連結売上高：671億円 連結営業利益：122億円 連結営業利益率：18.2%

アジアの不調を欧州で相殺、単体の下期における売上増により、計画達成を目指す。

第2四半期（4月－9月）連結・単体業績一覧（対前年）

項目	実績	前年	前年増減	前年比
連結売上高	312.8	315.2	-2.4	-0.8%
連結営業利益	51.1	47.2	+3.8	+8.1%
連結経常利益	59.1	34.7	+24.4	+70.3%
連結純利益	41.3	20.9	+20.3	+97.0%
単体売上高	227.9	227.3	+0.6	+0.3%
単体営業利益	35.4	33.1	+2.3	+7.0%
単体経常利益	47.0	22.2	+24.8	+111.9%
単体純利益	32.6	15.6	+17.0	+109.3%

※単位は億円 四捨五入して記載

連結営業利益率16.3%	前年15.0%	+1.3p
単体営業利益率15.5%	前年14.6%	+0.9p

第2四半期（4月－9月）連結・単体業績一覧（対計画）

項目	実績	計画	計画増減	計画比
連結売上高	312.8	322.1	-9.3	-2.9%
連結営業利益	51.1	58.7	-7.6	-12.9%
連結経常利益	59.1	61.9	-2.8	-4.5%
連結純利益	41.3	40.0	+1.3	+3.1%
単体売上高	227.9	231.5	-3.6	-1.5%
単体営業利益	35.4	37.6	-2.2	-5.8%
単体経常利益	47.0	45.0	+2.0	+4.5%
単体純利益	32.6	31.0	+1.6	+5.3%

※単位は億円 四捨五入して記載

連結営業利益率16.3%	計画18.2%	-1.9p
単体営業利益率15.5%	計画16.2%	-0.7p

第2四半期 子会社業績一覧（対前年・対計画）

項目	実績	前年	前年増減	前年比(%)
売上高	84.9(88.2)	87.8	-3.0(+0.4)	-3.4(+0.4)
営業利益	15.6(16.4)	14.1	+1.5(+2.3)	+10.8(+16.2)
項目	実績	計画	計画増減	計画比(%)
売上高	84.9	85.3	-0.5	-0.5
営業利益	15.6	17.7	-2.1	-11.6

子会社営業利益率18.4% 前年16.1% +2.4p
 計画20.7% -2.3p

※単位は億円 四捨五入して記載 () は為替中立 海外子会社は2025年1~6月の業績

[グループ別] 第2四半期 売上高 (対前年比較)

※子会社は連結調整後

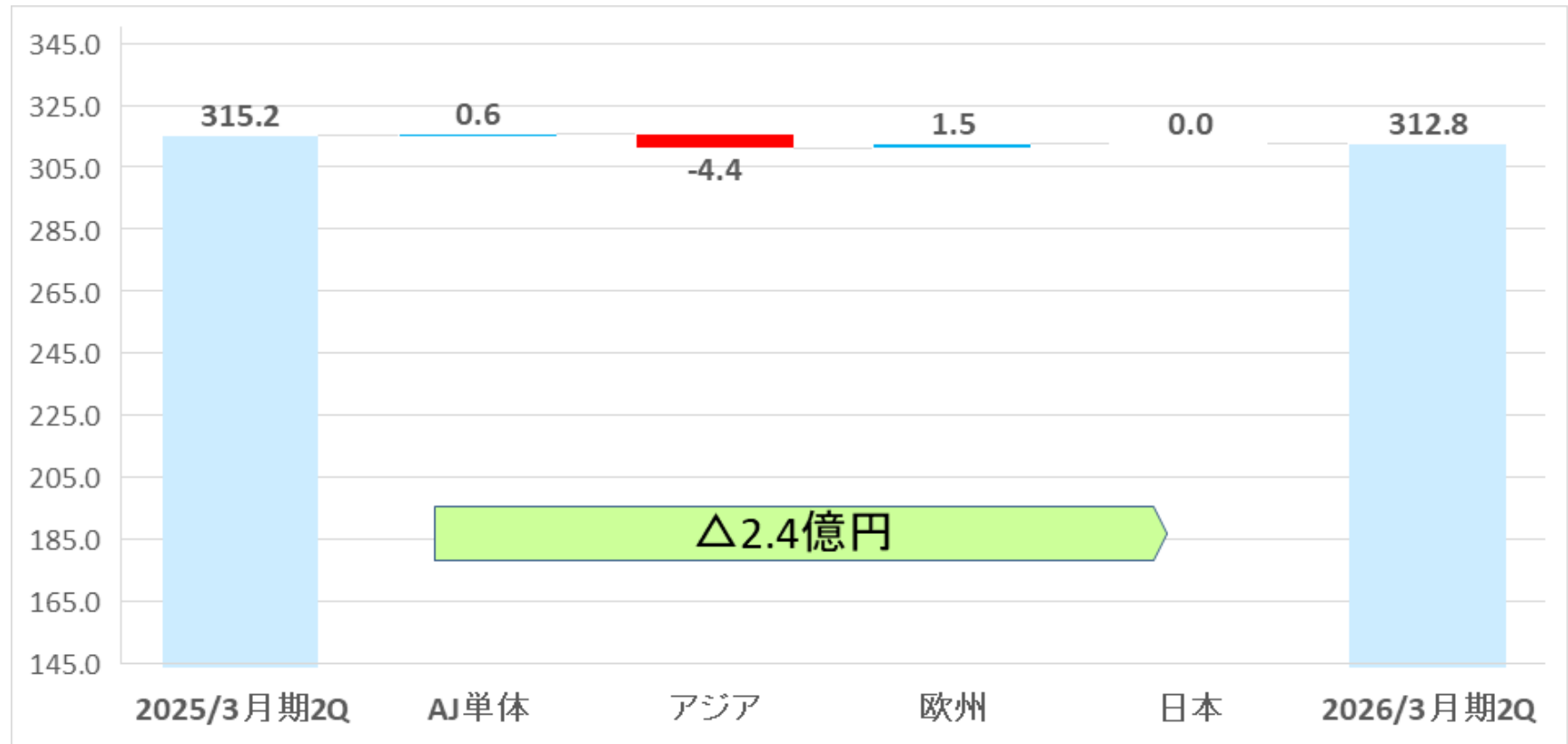
(単位：億円)

	2026/3期 2Q (A)	2025/3期 2Q (B)	増 減 (A-B)	増 減	
				%	為替中立
アリアケジャパン	227.9	227.3	0.6	0.3%	-
子会社 計 ※	84.9	87.8	△ 3.0	△ 3.4%	0.4%
アジア	45.6	50.0	△ 4.4	△ 8.9%	△ 3.4%
欧州	37.7	36.2	1.5	4.1%	5.7%
日本	1.6	1.6	△ 0.0	△ 1.3%	-
連結	312.8	315.2	△ 2.4	-0.8%	0.3%

EUR	169.66	172.33	△ 2.67
人民元	20.19	22.04	△ 1.85
台湾ドル	4.96	4.95	0.01
ルピア	0.0090	0.0099	△ 0.0009

[グループ別] 第2四半期 売上高 (対前年比較)

(単位：億円)



[グループ別] 第2四半期 営業利益（対前年比較）

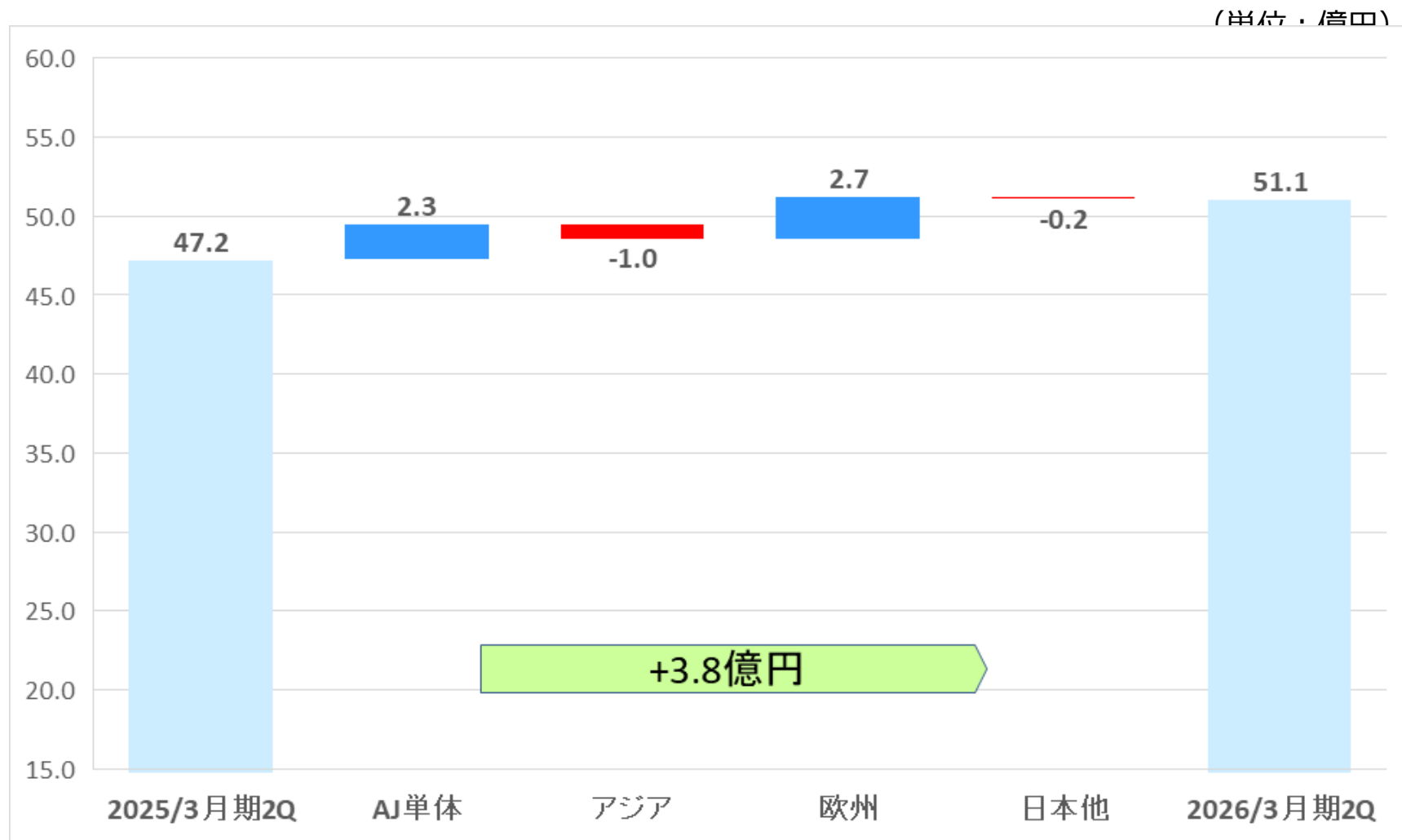
営業利益

※子会社は連結調整後

（単位：億円）

	2026/3期 2Q (A)	2025/3期 2Q (B)	増 減 (A-B)	%	
				%	為替中立
アリアケジャパン	35.4	33.1	2.3	7.0%	-
子会社 計 ※	15.6	14.1	1.5	10.8%	16.2%
アジア	10.7	11.7	△ 1.0	△ 8.6%	△ 3.9%
欧州	5.0	2.3	2.7	115.5%	118.8%
日本	0.1	0.1	△ 0.0	0.0%	-
連結	51.1	47.2	3.8	8.1%	9.7%

[グループ別] 第2四半期 営業利益 (対前年比較)



[単体] 第2四半期 決算のポイント

□ 売上高・営業利益

増収、増益。

売上高：227.9億円（対前年+0.3% 対計画-1.5% 通期計画進捗率46.5%）

営業利益：35.4億円（対前年+7.0% 対計画-5.8% 通期計画進捗率42.0%）

営業利益率：15.5%（対前年+0.9p 対計画-0.7p）

メーカー向け製品が好調も、CVS向け製品の販売減、期間製品の減により売上は微増。価格改定、コストダウン効果により営業利益率は改善した。

□ 経常利益・純利益

経常利益：47.0億円（対前年+111.9% 対計画+4.5%）

純利益：32.6億円（対前年+109.3% 対計画+5.3%）

対前年は前期のデリバティブ評価損の影響による。対計画でも増。

□ 2026年3月期計画（変更なし）

売上高：490億円 営業利益：84.3億円 営業利益率：17.2%

[単体] 第2四半期 売上・利益の状況

□売上高

- CVS向けが、大手CVSの売上低迷の影響を受け売上減（対前年－6.3%）
- 外食は期間限定製品、限定メニュー等の改廃などの影響で微増に留まる。（＋0.4%）
- 加工食品メーカー向けは節約志向、コメ代替需要など堅調な需要と価格改定効果で売上増（＋4.6%）
- B2C（CVS、量販、その他）は採用増により順調に売上伸長（＋6.5%）

□営業利益

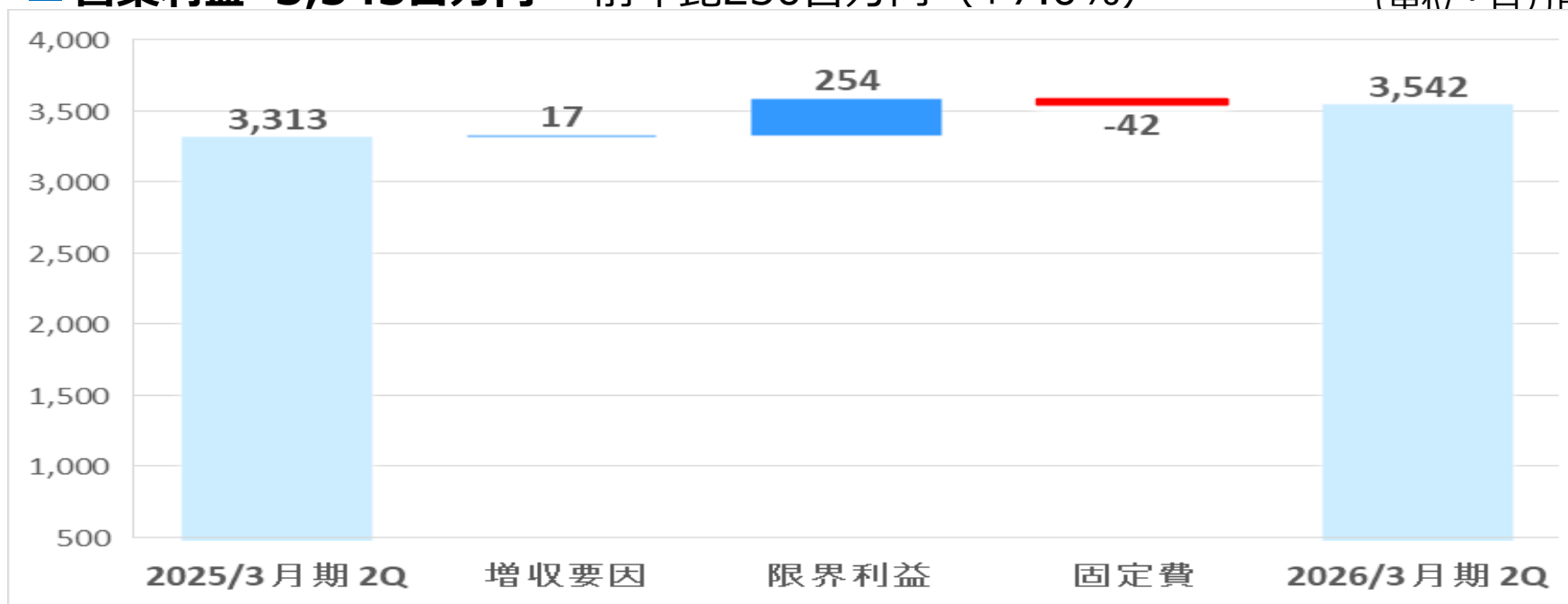
- 工場のVA、工程改善によるコストダウンにより原価押し上げ要因を吸収し、営業の利益改善（価格改訂、リニューアル）により対前年1.0p利益改善。
- 売上高に応じて生産高を調整したことによる固定費率増、原材料費率が計画より若干上振れしたことにより、計画より－0.5pとなる。
- 工場のコストダウン計画約20億円/年に対し約15億円（約75%）実績。
営業の利益改善15億円/年に対し約14億円（内価格改定11億円）（約92%）実績。
- 2Q累計の販売単価は対前年＋3.5%、数量の伸びは－3.2%。

[単体] 第2四半期 カテゴリー別売上高比率及び増減

カテゴリー	売上高比率	前年比増減
食品メーカー	20.3%	+4.6%
外食	40.4%	+0.4%
CVS・中食・スーパー	26.5%	-6.3%
B2C(B2B2C)	11.0%	+6.5%
輸出(台湾)	1.8%	+10.8%
合計	100%	+0.3%

[単体] 第2四半期 利益変動要因 (対前年比較)

■ **営業利益 3,543百万円** 前年比230百万円 (+7.0%) (単位:百万円)



■ **経常利益 4,701百万円** 前年比 +2,482百万円 (+111.9%)

(単位:百万円)

増加要因	営業利益増加	230
	受取配当金他	213
	デリバティブ評価損の減	1,832
	為替差益	234
	その他	33
減少要因	貸倒引当金繰入	△ 60
	合計	2482

[単体] 2026年3月期通期の見通し

□売上高

- 下期の仕掛案件を確実に取り込み計画達成を目指す。
- 流通向けB2B2C製品の大型採用。下期対前年3億円増。
- CVS向けに、既存品ブラッシュアップ、B2C製品提案などにより売上回復見込み。

□利益改善

- 売上増に伴う生産増により利益率改善及び利益額の上積みを図る。
- 工場におけるVA、工程改善によるコストダウン、営業における利益改善（価格改定、リニューアル）は継続して進行。加えて低利益率品の価格改定を実施。
- 想定以上の円安進行が原価押し上げ懸念要因。一層の原材料費コストダウン、経費削減に取り組む。

[子会社] 第2四半期 決算のポイント

□売上高・営業利益

- 減収、増益。為替中立では増収増益。
アジアの消費低迷で減収となるも、ベルギー利益改善進み増益。
売上高：84.9億円（対前年－3.4% 対計画－0.5%）
営業利益：15.6億円（対前年＋10.8% 対計画－11.6%）
営業利益率：18.4%（対前年＋2.4p 対計画－2.3p）

□各国状況

- 中国、台湾の消費低迷により、アジアが減収、減益。
- 欧州は、全般に好調を維持し、増収、増益。
- フランスは欧州内の売上が減り、日本向けが増えて減収となるも固定費吸収効果で増益。
- ベルギーは利益改善が進み増収、増益もわずかに営業赤字。
- オランダは堅調に増収、増益。

[子会社] 2026年3月期通期の見通し

□売上高

- アジアの不調を欧州でカバーし年度計画達成を図る。
- 中国、台湾の消費低迷は年内継続の予想。売上減を新規顧客、新規製品採用でカバーし、前年超えを目指す。
- 欧州は引き続き好調を維持。フランスの現地売上減を新規顧客でカバーする。
- 日本食（ラーメン、カレー）の引き合いが強く、日系問屋、日系企業をメインに営業強化。

□利益改善

- ベルギーの利益改善をさらに進行。期末にかけて単月黒字を継続する。
- 中国、台湾は、高営業利益率の現状を維持する。

[アジア] 海外グループ会社の状況

□中国

- 前期からの景気後退による食品業界全体の業績低迷の影響を大きく受けた。コストダウン、経費節減などで高営業利益率は維持。
- 既存顧客の減を加工食品メーカー、外食、B2C製品の新規採用品でカバーする。
- 今後B2C製品拡販、韓国市場への販売を進める。

□台湾

- 顧客の業績影響を受けた。顧客の業績は、店舗増による伸長組と品質不足、高価格などによる停滞組とに2分された。ラーメン業界は顧客内でのシェア争奪戦となり競争激化、飽和感が出てきた。
- 減収となるも、コストダウン、経費節減などで高営業利益率は維持。
- 火鍋、うどん、ファミレスなどラーメン以外の外食、加工食品メーカー向けの営業に注力する。

□インドネシア

- 日本向けが増え、ASEAN輸出が減。インドネシア国内は外食、メーカーとも引き合い多く好調。
- 当社グループ（日本、台湾）、当社グループ外の売上比率は57：43
- 日本外食の海外進出に伴う引き合いが増加（国内、アジア、中東等）
- 日本向けハラル製品輸出を進行中（ラーメンスープ）

[欧州] 海外グループ会社の状況

□フランス

- 日本向けの輸出が増加、一部欧州内顧客の受注減により減収となるも、生産増による固定費吸収、ユーティリティークスト改善などにより営業利益は大幅に改善した。
- 日本向け輸出は安定継続、欧州向けは新規顧客でカバーする（採用確定済）。インダストリーはオーガニック製品の拡販を行う。（オーガニック認証所有）
- スプレー品の稼働（欧州、日本）が始まり、来期欧州内インダストリー向けで採用内定。
- UHTとセットでインフュージョンブイヨン（だしパック）の販売を推進する。（Ariake専用棚）

□ベルギー

- 日本向け輸出増加、欧州顧客も増加。固定費吸収、ユーティリティークスト改善などにより対前年大幅な利益改善を達成。下期は単月黒字化継続。来期は通期で黒字化見込み。
- 日本食、特にラーメンのニーズ多く、今後の成長要因。現地生産の優位性を活かして拡販。日系問屋との関係強化を図る。（日本食は対前年16%増。過去4年で2倍に成長）
- UHT製品は、パリ中心に拡販中。営業強化し長期戦で対応。OEM生産も検討中。
- インダストリーはフランス同様にオーガニック製品を拡販（オーガニック認証所有）

□オランダ（ヘニングセン）

- 欧州インダストリー中心に売上好調。引き続き好調維持。

[その他] 海外グループ会社の状況

□米国子会社の進捗

- 2024年7月1日Ariake U.S.A.,Inc.を設立。資本金1000万\$。東海岸バージニア州チェサピーク市に53000m²の候補地を選定。土地DD、FS終了。不動産DD進行中。
- 2025年度土地購入・設計開始～2026年度着工、2028年度稼働開始予定。

□中国日照有明の抹消

- 2025年7月2日日照有明を抹消。現段階で青島有明の立ち退き要求は撤回。新工場建設予定地を山東省内で検討中。
- 中期3年計画2027年度（2028年3月期）まで、既存青島有明内の設備増強で対応可。

2026年3月期計画

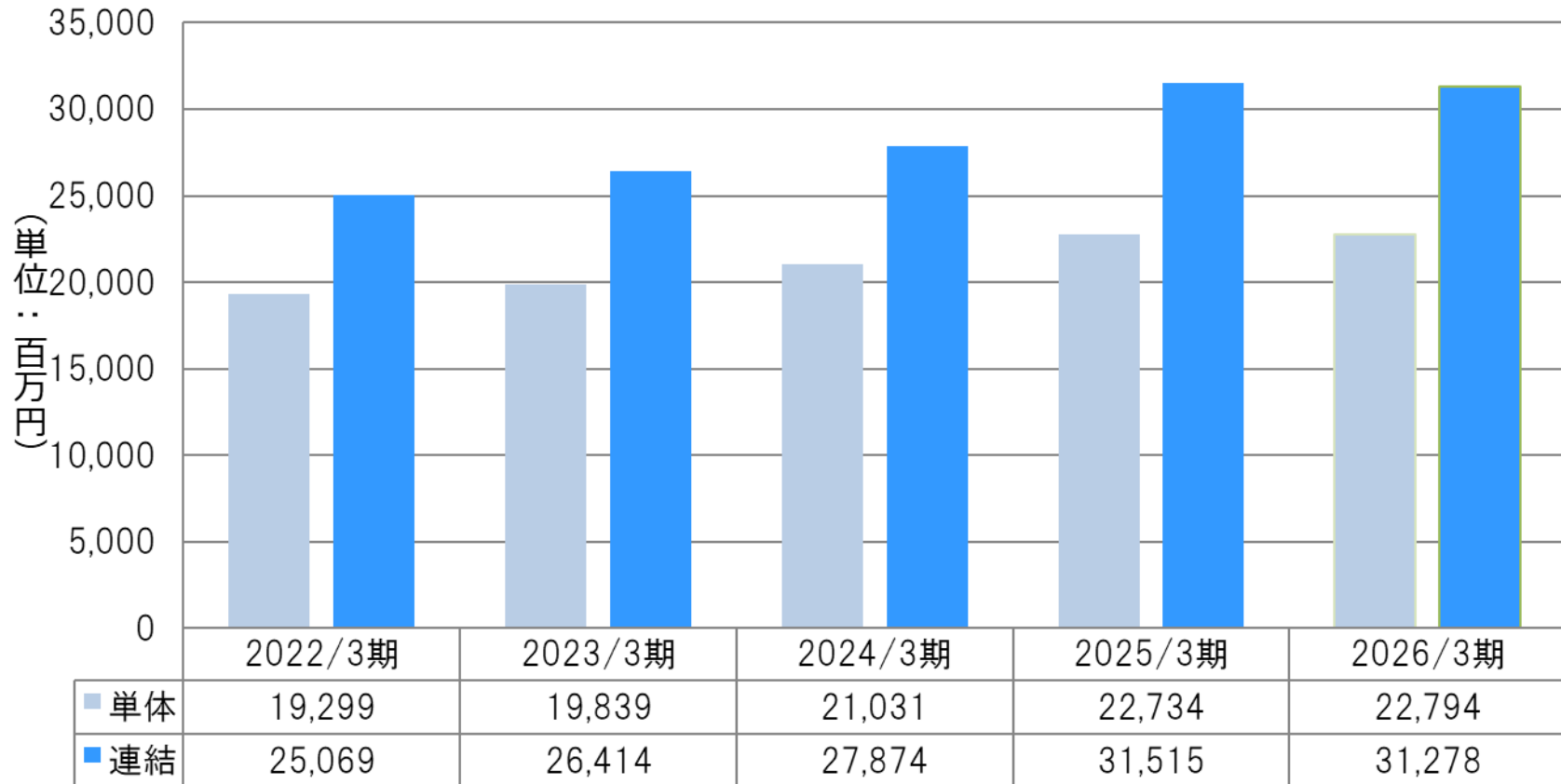
※子会社は連結調整後

(単位：億円)

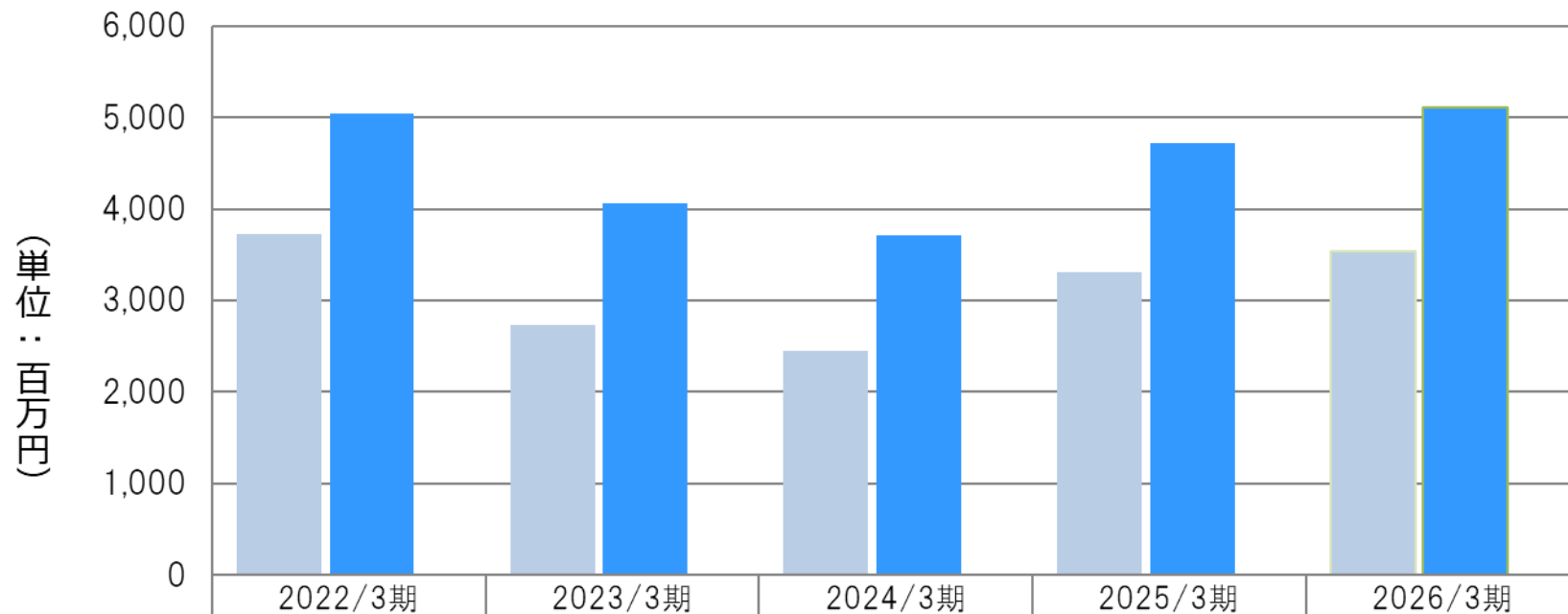
	売上高			営業利益		
	2026/3期 計画 (A)	2025/3期 実績 (B)	増減 A-B	2026/3期 計画 (A)	2025/3期 実績 (B)	増減 A-B
アリアケジャパン	490	475	15	84	78	6
子会社 計 ※	181	179	2	38	33	4
アジア	106	103	3	27	25	2
欧州	73	73	0	11	8	3
日本	3	3	0	0	0	0
連結	671	654	17	122	111	11

EUR	162.08	164.92	△ 2.84
人民元	20.59	21.67	△ 1.08
台湾ドル	4.51	4.84	△ 0.33
ルピア	0.009	0.010	△ 0.001

第2四半期 売上高の推移（単体・連結）

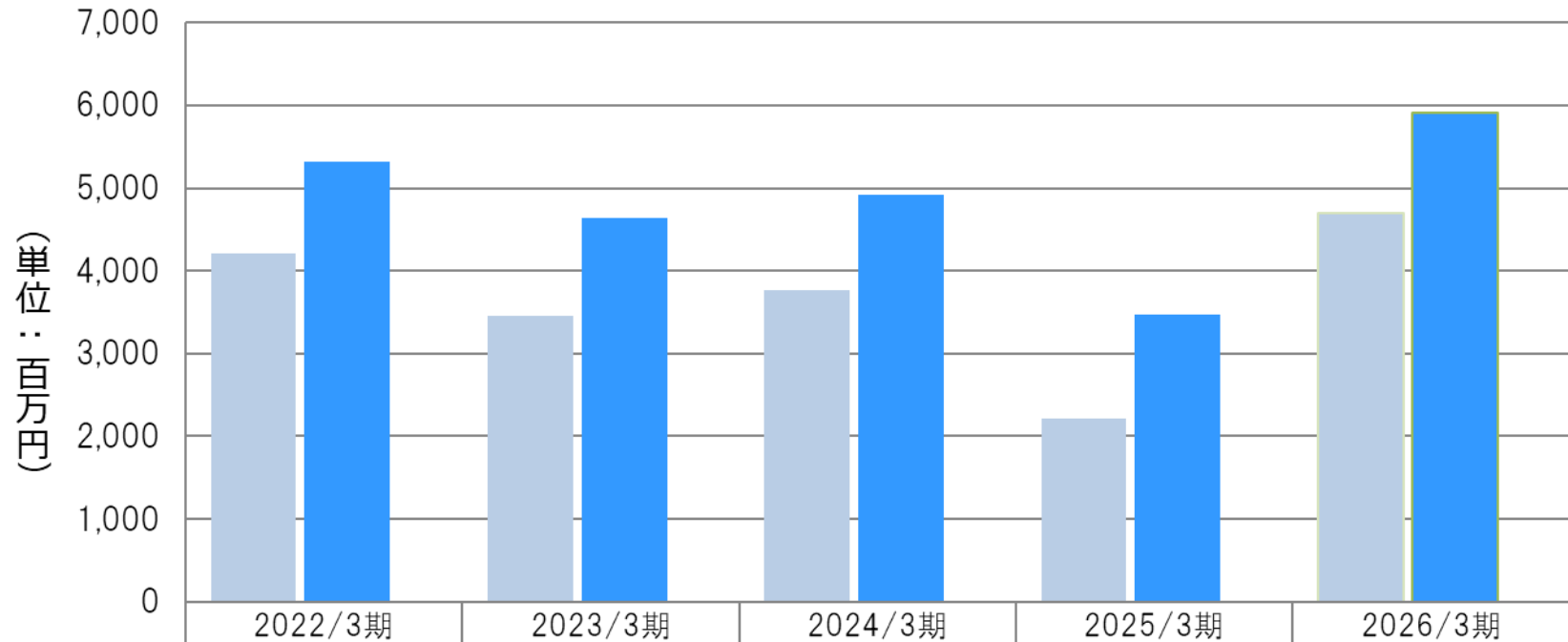


第2四半期 営業利益の推移（単体・連結）



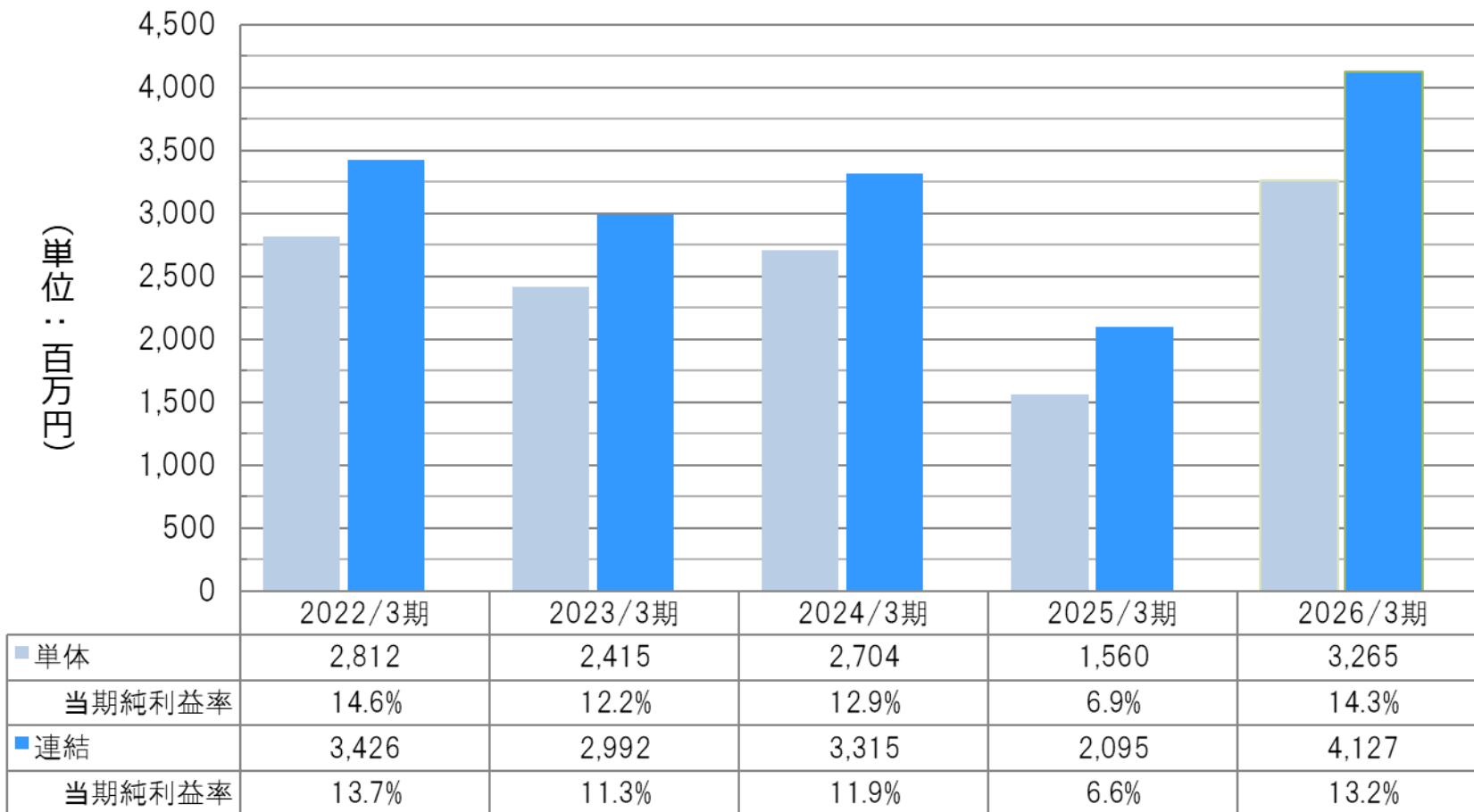
■ 単体	3,725	2,725	2,448	3,313	3,543
営業利益率	19.3%	13.7%	11.6%	14.6%	15.5%
■ 連結	5,047	4,057	3,713	4,724	5,107
営業利益率	20.1%	15.4%	13.3%	15.0%	16.3%

第2四半期 経常利益の推移（単体・連結）

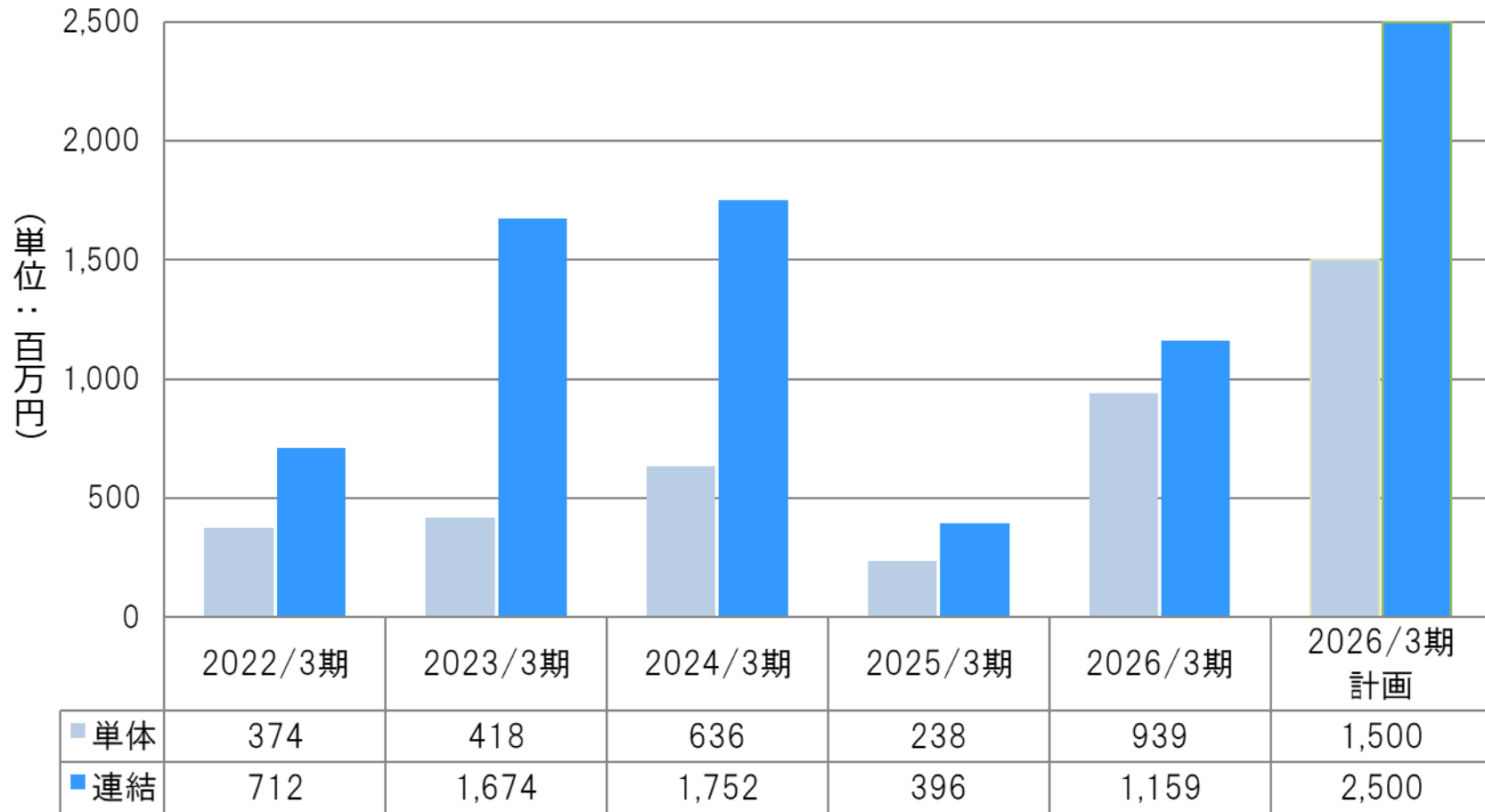


■ 単体	4,216	3,463	3,766	2,219	4,701
経常利益率	21.8%	17.5%	17.9%	9.8%	20.6%
■ 連結	5,319	4,637	4,921	3,472	5,912
経常利益率	21.2%	17.6%	17.7%	11.0%	18.9%

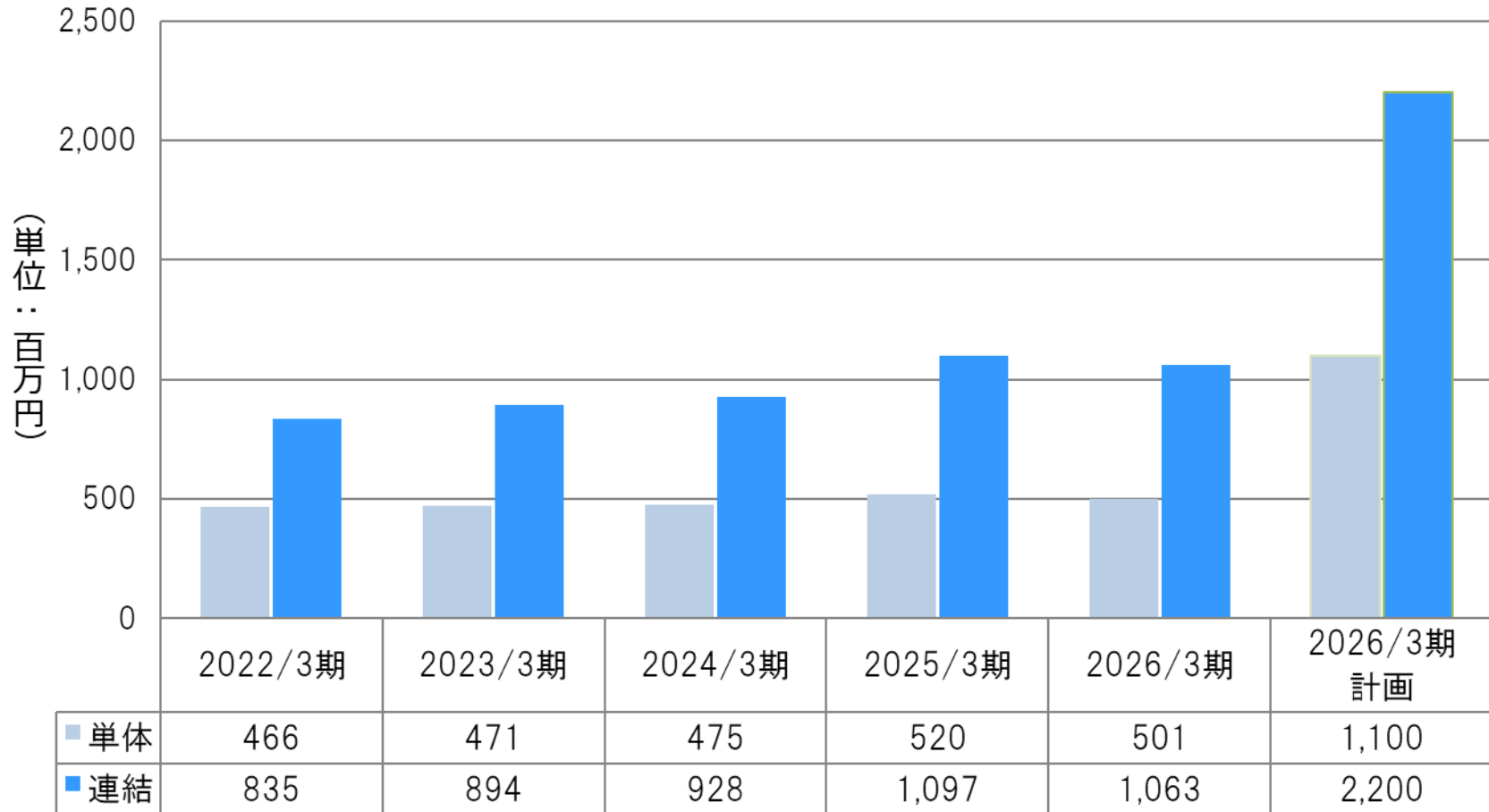
第2四半期 親会社株主に帰属する 当期純利益の推移（単体・連結）



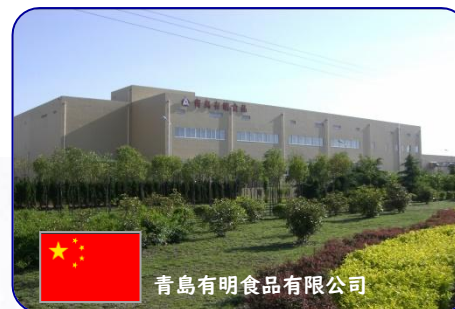
第2四半期 設備投資の推移（連結・単体）



第2四半期 減価償却費の推移（連結・単体）



アリアケグループ「世界7極体制」



Henningesen
Nederland B.V.

青島有明食品有限公司

Ariake Europe NV

F. P. Natural
Ingredients SAS

アリアケジャパン株式会社
台湾有明食品股份有限公司



PT. Ariake Europe Indonesia



- 本資料は、会社内容をご理解いただくための資料であり、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本資料に記載されている業績予想（計画）及び、将来の予測につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものです。これには為替や金利、国際情勢、市場動向や経済状況、競争環境、生産能力、将来における売上、収益性、設備投資、その他の財務指標の状況、法的、政治的、または規制上の状況、疫病や健康問題の影響など、さまざまな不確定要素が内在しており、実際の業績は異なる場合があります。当社はこうした情報の正確性または完全性を保証しません。